



その他イベントの写真などは市公式SNSで配信中!



日田 - Hita -

1/24

高校生が開発 日田梨ジャム



岩田屋久留米店で、日田三隈高等学校の生徒が日田梨ジャム“ひたジュエル”の店頭販売会を行った。これは、市が企画する「ひたアグリスクール」の商品開発コースで取り組んだもの。販売開始直後から多くの客が訪れ、生徒らは商品の魅力や開発への思いを直接伝えた。商品はわずか1時間で完売するほどの、人気ぶりだった。

1/29

文化財の継承は足元から



日田祇園や、「くにち」など各地の祭礼で披露される「楽」等がくで使う「草鞋」わらじ。関係者が集まるなか、文化財保護員らによる草鞋作り講習会が開催された。解説を交えた実演と記録を行い、今後の継続的な技術指導や公開につなげる。引き続き、祭礼等を足元から支える「草鞋」の作り手と、材料の餅藁もちわらを作る市民が増えるよう呼びかけたいと話す。

中津江 - Nakatsue -

1/21

伝統行事にふれる



中津江公民館で、子どもたちに伝統行事を体験してもらおうと、臼と杵を使った餅つきを実施。参加したつえっ子こども園の園児は、蒸し上がった餅米をつく前に味わい、「お餅の味がする」と驚きの声を上げた。杵を手にした園児たちは、力いっぱい餅をつき、会場は笑顔と元気な声に包まれた。

前津江 - Maetsue -

1/25

地域の宝を火災から守る



前津江町の国指定重要文化財「大野老松天満社旧本殿」で、第72回文化財防火デーに伴う防火訓練が行われた。消防関係者や住民約30人が参加し、万が一の火災に備え、迅速な通報や放水手順を入念に確認した。貴重な文化財を後世へ守り継ぐため、地域・行政・消防団が一体となって防災意識を確認し合う機会となった。

大山 - Oyama -

1/25

かんこうじ 寒麴づくりを体験



都築コミュニティセンターで、住民自治組織「大山すみい会」の指導のもと行われた「寒麴づくり講習会」。寒麴は、炊いた餅米に米麴と塩、砂糖を入れて熟成させたもので、瓶に移して保存し約3か月後、濃厚で甘じょっぱい味に完成する。餅米1升分の仕込みのあと、昨年作った寒麴をサラダや漬物にかけて試食した。

1/27

家族の想いをカタチにして



大山公民館で「終活はエンディングノートから」をテーマに、大山集落支援員が主催した「難しくない終活のお話会」。講師に「(同)BLESS」代表の稲光祥一いなみつさんを迎え、50人が参加した。稲光さんは、葬儀やお墓、家屋の相続などに関連して終活の大切さを伝え、参加者からの相続に対する不安や疑問などに丁寧に応えていた。

天瀬 - Amagase -

天ヶ瀬駅でおもてなし



令和6年4月から運行が始まった「D&S列車 かんぱち・いちろく」。“おもてなし駅”となっているJR天ヶ瀬駅では、地元の人たちとの触れ合いや特産品の販売が続けられている。駅前にある温泉の手湯や足湯、お湯につけると文字が浮き出る「湯みくじ」も好評。天瀬ならではの“心のこもったおもてなし”で、乗客を温かく迎えている。

上津江 - Kamitsue -

1/14

お茶会から始まるAI体験



上津江振興局で開催された、上津江地区集落支援員主催の「支援員カフェ」。“気軽なおしゃべりと、ちょこっとAI体験”をテーマに、参加者は自分のスマートフォンを使ってAI操作にチャレンジ!初めて体験するAI技術の便利さや面白さに驚きながら、お茶を飲みつつ、和やかな交流のひとつときを楽しんだ。